

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区高輪 1-5-38
園名	ミアヘルサ保育園ゆらりん高輪

1 活動のテーマ

<テーマ>

感情

<テーマの設定理由>

5 歳児が入園してきた際、コロナウィルス感染症の発症・流行によりマスクの着用が必要となり、表情や感情を汲み取ることが難しく、他児との距離も制限され、幼少期に築かれるべきはずであった他者との関わり、コミュニケーションの不足に繋がっているのではないかと感じた。この活動を通して、自分の感情と向き合い、感情を整理する方法を見つける手がかりになるのではないかと感じた。特に喜怒哀楽に着目し、自分の感情の表現の仕方を様々な体験を通じて身に付けていけたらと思う。活動を重ねることで幼児クラス、特に 5 歳児の子どもたちがポジティブで前向きな思考や発言の探索につながるのではないかと感じる。

2 活動スケジュール

7月10日 感情とは何かについて知る。
7月11日 感情とは何かについて知る。
8月6日 「喜び」について知る。
8月8日 「喜び」について知る。
9月12日 「怒り」について知る。
10月3日 「哀しみ」について知る。
11月28日 色で自分の感情を表現してみよう。
12月4日 自分自身の感情を表現したTシャツ作りをする。
12月24日 政策したTシャツを着て自己表現を楽しむ。

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ ミエルモン
- ・ 絵本 (いのちの木)

4 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・哀しみの必要性について知る。
- ・人の哀しみの話を聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

悲しみの中でも今回は主に「死」について話をした。

死の原因は災害、病気、事故に遭う等様々あり、子どもたちに伝えたかったのは「人はいつ亡くなってしまうのか分からない、予測ができない。」「命は永遠にあるものではない。」ということ伝えたかった。

普段一緒に遊んでいるお友達や大切な家族、先生たちもいつかは必ず死を迎えるということ話をすると「えっ…」と言葉を失い、ショックを受けている表情を見せていた。中には、ご家族の死を想像して涙する子もいた。

「友だちとケンカをしていて「〇〇ちゃんなんて大嫌い!!」と酷い言葉を言ってしまった後、もしもその友だちが亡くなってしまったらみんなはどう思う？」と質問すると「あんなこと言わなければ良かったって思う。」と後悔するであろう回答が返ってきた。

「家族も友だちも明日も一緒にいられるかなんて皆分からないから、今一緒にいられることを大切にしようね。」という話をした。

家族に「悲しかった出来事はなに??と質問してみてね。」と伝えたところ、何人かの子どもたちが「ママと話したよ!」「パパはこんなこと言っていたよ。」と話をしてくれた。

大人になるにつれて様々な悲しみを体験して、人の痛みを知ったり寄り添ったりして人間関係を築いていくことを子どもたちに知って欲しい。

5 振り返り



<振り返りによって得た先生の気づき>

まずは悲しみについてどんな気持ちか聞いてみると「残念」「泣いちゃう」「落ち込む」「ショック」という言葉が子どもたちから出ていた。一人ひとりが悲しみの感情についてよく考えて答えているように感じた。

保育者たちが自身の悲しい出来事を話した際、その気持ちに寄り添うように悲しみで涙を流す児も中にはいた。

また、他児に対しての言葉遣いを改めるきっかけをなつた。なかなか改善まではいかないが、言葉を発言する時にふと思い出せるように今後も話をしていきたい。